

「物来順応」

学校法人園田学園 理事長 齊藤悦一

「悦: 生かされて生きる今日のこの命」理事長室にある盾  
(右写真) の格言

昨年7月、一谷宣宏前理事長が急逝されました後を受け、理事長に就任し1年半近くが経過しました。

高校時代の友人で昭和19年生まれの同い年であっただけに、志半ばでの若い死は本当に残念で、胸を締め付けられる思いでありました。ここ10年少しの中に大学同期の友人、前職会社の同期の友人を相次いで数人亡くしており、さらに、身内では、同時期に連れ合いを、また実の両親、義理の両親、叔父さん3人をなくしており、胸の痛みに耐えながら、人の命の儚さを感じ続けているところです。

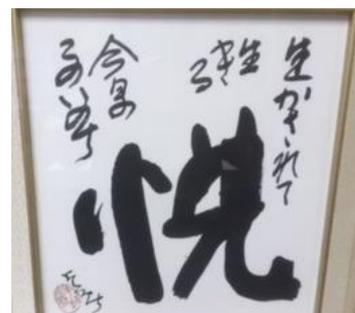
年代を考えると皆様の中には同様の境遇におられる方もおられると思います。意を強くし、前を向いて生きていかなければならないと思います。

一谷前理事長をはじめ私の周りでなくなった人々に思いを馳せるとき、私に長く生き、何かみなさんの代わりに社会に貢献してくれと、語りかけられているような感じがしています。

私は大学を卒業してから50年を経過しましたが、その間ずっと働きづめで、仕事に関連する勉強はしましたが、勉学を純粹にするということはありませんでした。同世代のシニアの皆様が元気に専門的な勉強に励んでおられることに敬意を表したく思うとともに、私も見習わなければと思うこの頃です。

60歳で前職を定年退職の後、私は、一谷前理事長との縁で、園田学園という教育の場で働かせてもらっていることが一つの運命であり、幸い私は、大手術はしましたが、まだ健康であり、園田学園の教育活動のさらなる発展のために最善を尽くしていきたいと考えております。

座右の銘は「物来順応」です。自分の周りに起こることに逆らうのではなくそれを受け入れ、心をありのままに従わせ生きるといふことと解釈しています。



「園田学園女子大学 シニア専修コース けやき便り 第19号 2018.11」に掲載された原稿です